


令和5年 5月26日	<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>6月号</h2>	茨城県病害虫防除所
---------------	-------------------------------	-----------

**薬剤散布時には周りに配慮して飛散防止に努めましょう。**

**～令和5年度茨城県農薬危害防止運動が始まります（6/15～9/14）～**

＜ 目 次 ＞

<b>I. 今月の予報</b>	
<b>【注意すべき病害虫】</b>	
水稲：縞葉枯病（ヒメトビウンカ）、ニカメイガ・・・・・・・・・・・・・・・・ 1	
<b>【防除所レポート】</b> イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の防除適期の予測・・・・・・・・ 2	
○水稲のいもち病の防除について・・・・・・・・・・・・・・・・ 2	
ナシ：黒星病、ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）・・・・・・・・ 3	
<b>【防除所レポート】</b> ナシヒメシンクイの防除適期の予測・・・・・・・・ 4	
果樹共通：チャバネアオカメムシ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4	
半促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・ 5	
夏ネギ：べと病、黒斑病（葉枯病を含む）・・・・・・・・ 5	
<b>【その他の病害虫】</b>	
水稲、ブドウ、半促成ピーマン、夏ネギ・・・・・・・・ 6	
○サツマイモ基腐病の防除対策（植付期～生育期）・・・・・・・・ 7	
<b>【防除所レポート】</b> 小麦の赤かび病の発生状況と今後の対策について・・・・・・・・ 8	
<b>II. 今月の気象予報</b> ..... 9	
最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの 「農薬登録情報提供システム」( <a href="https://pesticide.maff.go.jp/">https://pesticide.maff.go.jp/</a> ) で確認することができます。	
<p>詳しくは、茨城県病害虫防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200          ホームページでは病害虫・フェロモントラップ・農薬関連情報をご覧いただけます。  <a href="https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/">https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/</a></p> <p>※病害虫の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病害虫の防除や農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病害虫防除所等の指導機関にお問い合わせください。</p>	

# I. 今月の予報

## 【注意すべき病害虫】

水 稲
-----

### 1. 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	多い	県西地域、 県南の一部地域

[予報の根拠]

- ① 5月23日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は、平年よりやや早いと予測される。
- ② 5月中旬現在、県西・県南地域の小麦圃場におけるヒメトビウンカの10回振りすくい取り虫数は、本年を含む過去8年中最も多い。
- ③ 2～3月に採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫におけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、県西・県南地域15地点中7地点で5%以上\*の高い値であった。

\*農業研究所作成のマニュアルにおいて、育苗箱施用等による薬剤防除を推奨する値。

(令和5年3月22日発表 病害虫発生予察注意報第3号 参照)

[防除上注意すべき事項]

- ① 近年、本病の発生が認められた地域で、ヒメトビウンカを対象とした育苗箱施用してもなお本病の発生が多かった水田や、本年育苗箱施用をしなかった水田等では、ヒメトビウンカを対象とした本田防除を行う。
- ② 近年、ヒメトビウンカに対する防除適期が早まっているので、次ページの防除所レポートの本年の防除適期をよく確認し、適期に防除を行う。
- ③ 育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を選択する。
- ④ 5月上中旬に採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫におけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率について、今後調査を行い、5月末頃に病害虫防除所ホームページに情報を掲載する予定なので参考にする。

(令和5年5月24日発表 病害虫発生予察注意報第1号 参照)

### 2. ニカメイガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① フェロモントラップへ誘殺時期は、龍ヶ崎市および水戸市で平年よりやや早く、筑西市で平年並である。
- ② 5月第4半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、龍ヶ崎市で平年より多く、水戸市で平年よりやや多く、筑西市で平年並～やや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 例年発生が目立つ水田では、第一世代幼虫を対象とした薬剤防除を実施する。

## 防除所レポート [イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の防除適期の予測]

イネ縞葉枯病対策としてのヒメトビウンカの本田散布の防除適期は、ヒメトビウンカ第二世代幼虫の発生開始期から増加期（産卵最盛日から7日後までの間）である。

5月23日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は平年よりやや早いと予測される（表）。

近年、ヒメトビウンカに対する防除適期が早まっているので、表の今年の防除適期をよく確認し、適期に防除を行う。（令和3年9月30日発表 病害虫発生予報10月号 p6 防除所レポート参照）

表 水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予測産卵最盛日および予測防除適期\*

	アメダス地点	古河	下館	下妻	つくば	土浦
予測産卵最盛日	本年	6/5	6/10	6/8	6/10	6/7
	平年値	6/9	6/14	6/12	6/14	6/12
<b>予測防除適期</b>	<b>本年</b>	<b>6/5-12</b>	<b>6/10-17</b>	<b>6/8-15</b>	<b>6/10-17</b>	<b>6/7-14</b>

※今後の気温が平年並に推移した場合の有効積算温度から予測した産卵最盛日（5月23日現在）。防除適期は、予測した産卵最盛期から7日後までの間。

## 水稻のいもち病の防除について

### [現在の状況]

5月下旬現在、調査圃場の置苗での本病の発生は認めていない。

### [発生好適条件]

気温 20～25℃で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間濡れるような条件のとき、一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

### [防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は本病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して適切に処分する。
- ② 常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年6月中下旬頃から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので、適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。

※ 病害虫防除所ホームページにて6月より BLASTAM（アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム）による葉いもちの感染好適日の出現状況を随時掲載する予定ですのでご参照ください。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、葉における発病率（本年値 0.6%、平年値 0.2%）、発生地点率（本年値 26%、平年値 19%）ともに平年よりやや高い。
- ② 5月下旬現在、果実における発病率（本年値 0.2%、平年値 0.3%）、発生地点率（本年値 16%、平年値 28%）ともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 効果的に防除するためには、伝染源の除去が重要であり、発病した葉および果実は見つけ次第除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後にを行うと防除効果が高い。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並～やや早い	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、第一世代成虫の発生時期は、越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から、平年並～やや早いと予測される。
- ② 5月下旬現在、ナシヒメシンクイの4月からの総誘殺数は、かすみがうら市で平年より多く、笠間市、小美玉市、土浦市および筑西市で平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後、第二世代幼虫が発生するため、次ページの防除所レポートを参考に適期防除に努める。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

### 防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第二世代幼虫を対象とした防除適期は、第一世代成虫の誘殺数がピークに達した日の7～9日後である。
- ② 各地点の第一世代成虫の誘殺最盛期は、越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測し、おおむね平年並～やや早い。
- ③ 表中のかすみがうら市、土浦市、筑西市(旧下館市)については、今後、病害虫防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の予測防除適期 <sup>1)</sup>		
笠間市	6月19日	～	6月23日
小美玉市	6月18日	～	6月23日
石岡市	6月13日	～	6月17日
かすみがうら市	6月13日	～	6月17日
土浦市	6月13日	～	6月17日
筑西市(旧下館市)	6月13日	～	6月16日
筑西市(旧関城町)	6月12日	～	6月15日

1) 第一世代成虫の誘殺最盛期を基に予測した(5月26日現在)。

## 果樹共通

### 1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 本年2月に県内42地点で行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬調査では、越冬成虫数(本年値0.4頭、平年値1.8頭)は平年並、越冬地点率(本年値21%、平年値40%)は平年並～やや低い。(令和5年3月27日発表 病害虫発生予報4月号 参照)
- ② 5月下旬現在、笠間市のサクラ果実におけるチャバネアオカメムシの生息数、サクラ果実の吸汁果率ともに平年並である。
- ③ 5月第4半旬現在、かすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 夜温の上昇に伴い活動が盛んになり、果樹園への飛来が増加するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、活動が鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 多目的防災網(6mm目または9mmクロス目等)はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。

## 半促成ピーマン

### 1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、寄生花率（本年値 83.5%、平年値 72.5%）は平年並～やや高く、一花あたりの寄生虫数（本年値 7.0 頭、平年値 8.9 頭）は平年並である。
- ② 5月下旬現在、被害果率（本年値 2.0%、平年値 6.6%）、発生地点率（本年値 50%、平年値 56%）ともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルスを媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

## 夏ネギ

### 1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度\*（本年値 3.4、平年値 1.6）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 50%、平年値 24%）は平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年並または多いと予想され、発生を助長する条件である。

※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 降雨が多いと発生が多くなる。圃場をよく観察し、発病が認められたら初期防除を行う。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(夏ネギ 続き)

## 2. 黒斑病 (葉枯病を含む)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度\* (本年値 1.6、過去7年平均値 0.8) は平年並～やや高く、発生地点率 (本年値 38%、過去7年平均値 29%) は平年並である。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並または多いと予想され、発生を助長する条件である。

※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病初期の防除に重点をおき、その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 肥料切れや多肥は発生を助長するため、生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネドロオイムシ	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。
	イネミズゾウムシ	発生量：やや少ない	5月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
ブドウ	灰色かび病	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		
半促成ピーマン	灰色かび病	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。
	斑点病		
	うどんこ病	発生量：やや少ない	5月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。
夏ネギ	ネギハモグリバエ	発生量：平年並 ～やや少ない	5月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：やや少ない	5月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。

## サツマイモ基腐病の防除対策（植付期～生育期）

サツマイモが本病に感染・発病すると、栽培中に地上部の茎葉が枯死し、地下部の塊根（イモ）は腐敗していきます。また、周囲の健全な株にも病原菌が伝染するため、本病が圃場内にまん延し、大きな減収を招きます。

育苗期から生育期、収穫期から貯蔵期まで、年間を通して発生するおそれがあるので、本病の侵入防止と早期発見に努めましょう。

### 【病気の特徴】

糸状菌（カビ）により引き起こされ、保菌した苗・イモ・残さ（畑に残った葉や茎、イモ）等が伝染源となる。見かけ上は健全な苗やイモでも保菌している可能性があり、注意が必要である。

### 【防除対策】

#### 1. 作業にあたっての注意

- ・発生地域と行き来のあったコンテナ等は、洗浄、消毒してから使用し、残さや土を圃場に持ち込まない。
- ・作業する圃場ごとに、農機具や長靴等についた土は良く落とし、水で良く洗浄する。  
※コンテナや農機具、長靴等の洗浄は、圃場の近くでは行わない

#### 2. 健全苗を確保するために

- ・来歴が不明な切苗等は絶対に使用しない。
- ・多発生地域からは、切苗等を持ち込まない。
- ・生産者間で切苗等の譲渡等を行わない。

#### 【採苗時の対応】

- ・採苗時のハサミはこまめに消毒を行う。苗は地際から5 cm以上の位置で切る。
- ・採苗した苗は、採苗後速やかに苗消毒を行う。
- ・苗消毒用の薬液は、使用当日に調製し、登録の内容に従って浸漬処理を行う。

#### 【購入苗への対応】

- ・切苗を購入する時は、基腐病対策が徹底されていることを販売店に確認し、未消毒の場合は購入後に必ず苗消毒を行う。

#### 3. 侵入に備えた対策

- ・育苗終了後は、苗床の残さを育苗ハウスから持ち出して適切に処分する。苗床は、耕うんして残さの分解を促したのち、梅雨明け後の高温期に太陽熱土壌消毒を行う。
- ・排水の悪い圃場は、本病が侵入した際に発病しやすい傾向があるため、明きよ設置や耕盤破碎、枕畝の途中に排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。
- ・圃場ごとに植え付けた苗の苗床の場所や採苗日、ウイルスフリー苗などの購入先を記録する。

#### 4. 早期発見のために

- ・定植後、少なくとも2か月間は、2週間に1回程度、地上部の葉の変色、株元の茎の黒変などの異常が無いか確認する。

※ 本病が疑われる症状を見つけた場合は、抜き取り等は行わず、速やかに各地域の農業改良普及センターまでご連絡ください。





## Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 5月27日から6月26日)

気象庁(5月25日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	40	40
	降水量	関東甲信全域	20	40	40
	日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 5月27日(土曜日)から6月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<2週目の予報> 6月3日(土曜日)から6月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 6月10日(土曜日)から6月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。